



アジサイきらり

ミルクティー

輝く未来

いまこの瞬間の一歩先
何も決まっていない未来がある
淡い光に照らされて
きらきらと輝く世界がある

あなたは歩き続ける
未来へ歩んでいることを感じながら
笑顔でいまにさよならする

あなたの一步先は明るい
そこに幸せな運命があるって分かっているから
大好きな人と一緒にいる未来
きらきらと輝く世界

あなたは思い描きながら
口笛を吹いて歩んでいく

回り道

迷って悩んで回り道
人より時間がかかるけど
それでもいいと近頃思う
悩んで迷って遠回りした分
幸せ感じる力も増える

少しでもあなたに相応しくなりたいから
わたしらしく正々堂々
真っ向勝負
自信なんてないけれど
今までみたいに簡単には諦めない

いつかあなたの隣にいるのが
わたしであるように

雨の降る日

フリルの付いた青い傘
雨の日に活躍するわたしのお気に入り
憂うつになりそうな雨の日
そんな日でも気分をあげてくれる
わたしのマストアイテム

あなたが使うのは透明なビニール傘
シンプルさがあなたらしい
気取らなさがあなたらしい
そんなところも大好き

アジサイきらり

「雨粒がついてる」
きみがそう言ってアジサイを指さす
「アジサイきらり、だね」

気づかなかったよ
きみが教えてくれるまで

ツバサを持つように自由なきみ
僕の目にはきらりと魅力的に映る

ほら、固定観念がなくなれば
こんなに世界は変わる

いつもきみのひと言が
僕に驚きと幸せを運んでくる

見下ろす世界

にっこりと笑って
天使はわたしを置いて
するりと空へ

見下ろす世界はひろくて
ようやく見つけたあなたに
手を伸ばしただけでは届かない

触れるか触れないか
そのキヨリなのに
あと少し
たった数センチのキヨリなのに届かない

ふとあなたが振りかえる
そしてわたしに手を差し伸べる

つながれた手と手
そしてわたしはあなたの隣に

君の笑顔がそこにある限り
わたしの幸せも止まらない

思いの丈

あなたが好き
あなただから好き
見つめる先にあなたがいる

ふと視線を感じ振りかえるあなた
おもわず視線をそらすわたし

弱虫のわたしは視線が合うことすら怖くて…

でも
あふれ出す想いはとどまることを知らない
どうかこの想いがあなたに届きますように

笑っていて

辛いときも悲しいときも
あなたが笑ってくれるまで
となりにわたしがいるからね

わたしよりも泣き虫なあなた
「泣き虫」
なんてからかってるけど
本当はね
あなたの素直さが大好きなの
うたれ弱いけれどやさしいあなた
わたしは大好きなの

わたしがあなたを守るから
お願ひ笑っていて
あなたが辛いときも悲しいときも
となりにわたしがいるからね

アジサイきらり

<http://p.booklog.jp/book/71630>

著者：ミルクティー

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ishity/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/71630>

ブクログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/71630>

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブクログ